

## 相談支援事業所 相談に関する報告 (平成26年6月 ~ 平成26年8月)

春日苑障がい者生活支援センター

<p>全体的な所感 (相談内容の 傾向)特に気 になった点</p>	<p>&lt;新規相談の傾向について&gt;</p> <p>本人や家族からの相談よりも、各関係機関(病院のソーシャルワーカー、ケアマネジャー、訪問看護、ヘルパー事業所など)からの相談が多かった。内容は、<b>介護保険サービスとの併用や、障がい福祉サービスへの切り替えについて</b>の相談などであり、今後も同内容に関する相談は増えていくものと思われる。</p> <p>また、季節の変わり目による体調の悪化だけでなく、本人の疾患や身体状況の悪化に伴う支援調整が多かった。</p> <p>その他、書類の確認について、基本的に本人や家族からの依頼により対応しているが、ケースによっては確認が滞っている(自ら確認できない、内容を理解することは難しい等)こともあった。内容によっては、生活に直結するものもある為、定期的な自宅訪問と書類確認の重要性を再認識した。</p>
<p>連携の取れた ケースや工夫 したケース等</p>	<p>&lt;退院に伴い、多職種と連携を図ったケース&gt;</p> <p>身体状態の悪化に伴い、長期入院を余儀なくされていた方への支援調整について。</p> <p>入院前と比べてADL(日常生活動作)の改善は見られたものの、移動・排泄時の転倒のリスクは依然として高かったことから、各関係機関(病院のソーシャルワーカー・作業療法士、生活援護課、ケアマネジャー、ヘルパー事業所、福祉用具貸与事業所)を交えて今後必要とされる支援内容について意見交換をした。話し合いの中で、今まで気付かなかった本人の課題が明らかとなったこともあり、個別調整会議の重要性を改めて認識させられた。</p>

## 障がい者生活支援センターかすがい

<p>全体的な所感 (相談内容の 傾向)特に気 になった点</p>	<p>&lt;母子共に知的障がいがあるケースへの対応&gt;</p> <p>母子共に知的に障がいがある方からの相談が複数あった。具体的には、子どもの夏休みの過ごし方や、騒音での近隣トラブルの相談があった。夏休みの支援では、放課後等デイサービスに繋げようとしたが、母親が事業所の判断等が出来ずに利用までに時間がかかった。</p> <p>また、近隣住民とのトラブルについては、支援センターが調整することもあった。</p> <p>このように、<b>母子共に知的障がいがあると</b>、生活を送る上で様々な支援が必要である。</p> <p>こういった家庭を支援する為に、<b>普段のアセスメントで家庭環境や周囲との関わりを把握し、学校や地域住民とのネットワーク形成が必要になると思った。</b></p>
<p>連携の取れた ケースや工夫 したケース等</p>	<p>&lt;支援者がほぼいなかったが、支える機関が増え、必要な支援を受けられるようになったケース&gt;</p> <p>昨年にかすがいが関わり始めたケース。</p> <p>本人は数年前に夫を亡くし、頼れる身内もおらず、近所の住民とも関係が良くない状態であった。唯一民生委員が上手く関係を保ちながら地域包括支援センターへ相談に行き、かすがいが関わることになった。</p> <p>夫が亡くなってから自宅は荒れ放題であり、自宅内のゴミは業者が片付けたが、必要だと思われたヘルパー支援を受け入れないまま時間だけが過ぎていた。体調を崩し再度入院したことがきっかけで、訪問看護を受け入れ、同時期にヘルパー支援も受け入れるようになった。</p> <p><b>本人には人に影響されやすい部分があり、特に医師や看護師の言葉に影響を受けることがわかり、必要な支援を受け入れやすくなった。</b> 所有する土地のトラブルがあったため、成年後見制度利用を視野に入れているが、支援センターからだけでなく、医師や看護師からも利用を勧めてもらい、本人の生活を守るように支援していきたい。</p>

<p>全体的な所感 (相談内容の 傾向)特に気 になった点</p>	<p>日中活動先や職場での不安や不満を抱える特定の方たちからの継続した電話相談が目立った。内容によっては日中活動先や関係機関と連絡を取り合いながら、利用方法の調整や不安解消のための支援を行った。</p> <p>また、過去に相談があり、他の支援機関でのフォローや制度利用により安定した生活を送られていた方が、環境の変化や親世代の高齢化など、家族状況の変化があり、再度相談が入るケースが複数あった。</p> <p>ヘルパー事業所、日中活動の事業所、地域包括支援センター、他のさまざまな機関等からいかに信頼して相談してもらえるか、相談者を繋いでもらえるかは、相談があったその都度<b>必要な情報収集や情報提供を含め、相談者や関係者のニーズを考えた上での迅速な対応やさまざまな調整力を発揮できるかが大切だと思う。</b></p>
<p>連携の取れた ケースや工夫 したケース等</p>	<p><b>&lt;療育手帳所持の相談者の支援について&gt;</b></p> <p>精神科の医療機関に受診していることから最初はまあるへ相談が入ったが、その後の<b>支援経過の中で療育手帳が取得できたケースやもともと所持されていたケース</b>が複数あった。</p> <p>サービスに繋いだり、相談を聞いてきた中で、障がい特性の違いから、日中活動先や今後の生活の場を考える時に、知的障がいの分野を対象とする他の支援センターに繋いだ方がより一層の情報提供や選択肢が広がるのではないかと判断し、合同面接を行い今後も必要時には連携が取れるようにしたケースが続いた。</p>

<p>全体的な所感 (相談内容の 傾向)特に気 になった点</p>	<p>相談の内容として、不登校に関するものが目立った。小学校の高学年になる年齢から高校を卒業するくらいの年齢まで幅があった。学校に行かないとする理由はさまざまあって、友人関係や学習など要因が複雑に絡んでいることもあり、対応に保護者が悩んでいた。</p> <p>保護者と話し、<b>ひとつひとつ丁寧に聞き取りをすると、幼いころからの育てにくさや関わりの難しさ</b>を伝えてくることもあった。障がい者生活支援センターへの相談なので、相談者が前提として障がいを考えている場合もあったが、まずは<b>今の生活のしづらさについて整理して考えることができるよう支援</b>している。また、5～6歳の年長児の相談も多くあった。就学を考えて今からできる支援方法についての相談が大半である。</p>
<p>連携の取れた ケースや工夫 したケース等</p>	<p><b>&lt;子育て支援施設と連携の取れたケース&gt;</b></p> <p>子育て支援施設から繋がったケースで、「療育について知りたい」という相談であった。子育て支援施設と昨年度より<b>顔の見える関係を築いてきたこと</b>もあり、施設職員から事前に本児や母の様子について連絡があった。こういったケースの場合、療育や障がいに対するイメージができていないこともあり、相談の支援体制を整えておくことが大切である。</p> <p><b>&lt;保育園や幼稚園に出向いたケース&gt;</b></p> <p>就学前に卒園後のことを考え支援センターに繋がっておいた方が良いケースや子どもとの関わり方に困っているケースの相談が園を通してあった。療育の利用も考えたが、親子通所で土日に利用できるところが少なく、現状として園や家庭で子どもの生活環境を整えることや関わり方を伝えた。療育の利用に抵抗があったり、条件が合わなかったとして、福祉サービスの利用に関して、必要な人に必要なサービスが利用しやすくなるといいと感じている。</p>

## 基幹相談支援センターしゃきよう

<p>全体的な所感 (相談内容の 傾向)特に気 になった点</p>	<p>新規(53件)の障がい種別相談の割合(身体19%、知的16%、精神42%、障がい児15%、不明4%)を見ると、依然として精神障がいの相談件数が多い状況である。</p> <p>精神障がいに関係する相談は、引きこもりや情緒不安定、金銭問題、近隣トラブル、触法行為など、<b>複数の問題を合わせていることが多く</b>、精神疾患が疑われるものの、医療機関に全く関わっていないケースも少なくない。これらのケースは相談支援機関のみでの問題解決は困難であり、障がいに関する支援だけでなく<b>多くの分野(医療、保健、法律、教育、警察など)の専門的な支援を必要とする為、スムーズな連携が必要である。</b></p>
<p>連携の取れた ケースや工夫 したケース等</p>	<p>&lt;複数機関と連携し、安心した生活を送れるようになったケース&gt;</p> <p>アルコール使用障害で精神科に通院している本人と浪費癖のある妻、認知症の母との3人暮らしであったが、母親が施設入所したことにより、夫婦二人暮らしとなった。母親の件で関わっていた地域包括支援センターから今後の支援について相談があり、関わる事となった。</p> <p>関わり始めた頃は、生活費や就労の不安から、1日に何度も夫婦から電話があり落ち着かない様子であったが本人、妻、地域包括支援センター、母親の後見人と話し合いを重ね、<b>本人の意向を確認しながら</b>手帳や年金の申請、生活保護の相談、福祉サービスの利用に繋げる事ができ、本人の不安は少し解消され落ちついた生活を送れるようになってきている。</p> <p>現在も主治医、病院ソーシャルワーカー、福祉サービス事業所、生活援護課、地域包括支援センター、ハローワーク等複数機関と連携をとりながら支援が継続されている。</p>